

私の履歴書

私の履歴書

EPISODE3

～日本での学びをウガンダの大地へ～



Dr. Tingiira Bosco, DVM, MVSc

(ティンギーラ・ボスコ獣医師)

Senior Veterinary Officer, Kiboga District Office, Uganda

ウガンダの畜産



イギリスの首相だったウィンストン・チャーチルは、アフリカの中央部、ビクトリア湖の北側に位置するウガンダを「**アフリカの真珠**」と呼びました。乾燥地の多いアフリカで、標高が高いことから気候が温暖、かつ緑豊かであることから発せられた言葉だったのでしょうか、本当にその通りで自然豊かな緑あふれる国です。しかし、そのウガンダにも東北部から西南部にかけて農耕に適さない痩せた土地が太いベルト状に走っており、その地域では牛がたくさん飼育されているため、「**牛回廊**」と呼ばれています。ウガンダ東部ではボラン種と呼ばれる比較的体格の小さな牛が多いですが、西部ではアンコーレという体格や角の大きな在来種を数多く見ることができます。(写真)

若かりしティンギーラ獣医師

200年、JICAの技術協力プロジェクト「**家畜疾病対策計画**」がウガンダの家畜疾病診断ラボラトリーで実施されていた頃、ティンギーラ獣医師は、マケレレ大学の学生でした。このプロジェクトでは、対象地域として、全国の獣医事務所の中から5箇所が選ばれましたが、そのひとつがティンギーラ獣医師が現在所属するキボガ県でした。プロジェクトでは、キボガ県獣医事務所の機材整備を実施しており、同じ事務所で活動していたJICA海外協力隊員が家畜の疾病調査を実施していました。その調査には、当時学生だったティンギーラ獣医師も参加していましたが、当時のティンギーラ獣医師は基本的な**実験器具の使い方**もおぼつかなかったそうです。(右写真白衣の男性: 疾病調査時)



その数年後となる2010年、ウガンダのプロジェクトフェーズ2が実施されますが、日本人専門家がキボガ県を訪れたとき、大学を卒業して間もないティンギーラ獣医師はキボガ県獣医事務所働く獣医官として、ワクチネーションなどの獣医サービスを提供しており、**地域の畜産農家から信頼**を得ていました。ティンギーラ獣医師は病死した鶏の臓器を少し見ただけでその死因を言い当てました。まだ日本人専門家が見当がついていない段階です。それは「**創傷性胃腸炎**」という病気で、鶏が地面に落ちている釘などの金属を誤って飲み込み胃に刺さって死に至る病気でした。ティンギーラ獣医師は、地域の獣医官として必要である様々な臨床・診断スキルを、診療などの業務を通して身に付けようと日々奔走していました。

日本での課題別研修

JICAの日本人専門家に勧められ、ティンギーラ獣医師が牛の臨床技術を学ぶ課題別研修「**産業動物の獣医技術**」に参加したのは、2011年のことでした。札幌に3ヶ月間滞在し、北海道のたくさんの日本人獣医師が、ティンギーラ獣医師をはじめとする研修員への講義や実習を担当しました。その研修内容は、ダニが媒介する牛の感染症の診断や、寄



生虫の同定方法、牛の乳房炎の原因菌分離、臨床技術、牛の繁殖技術(受精卵移植)など多岐にわたりました。ウガンダに帰国後、ティンギーラ獣医師は、キボガ県獣医事務所のラボにおいて乳房炎の原因菌の分離・同定ができるように必要な機材を整備しました。また、その技術をマケレレ大学の学生が習得できるように研修会を開催し、**課題別研修で学んだ知識をウガンダの獣医師にも共有**しました。研修に参加したマケレレ大学の学生の中には、キボガ県で牛の乳房炎の調査を実施し、それを卒業論文としてまとめ、さらに科学雑誌に投稿して出版した人もいます。

二度目の研修

向上心の強いティンギーラ獣医師は、コロナ禍で世界中がソーシャル・ディスタンスを保つ中にも勉強の機会をうかがっていました2021年、ティンギーラ獣医師は「畜産バリューチェーン¹」というオンラインで開催されていた**課題別研修**に参加する機会を得ました。2週間という短期間の研修でしたが、農場における家畜の生産段階から、集乳所やと畜場における畜産物の加工、マーケットでの流通まで、それぞれのバリューチェーン段階において、畜産物の安全性を確保するための技術や留意点を学びました。ティンギーラ獣医師は中でも、**牛乳生産のバリューチェーンに興味**を持ちました。

研修では、「自国でバリューチェーンを阻害する要因を特定する」という課題が出されました。ティンギーラ獣医師は、キボガ県における牛乳生産のバリューチェーンを阻害している要因として、乳牛の①不十分な栄養管理、②低い繁殖効率、③疾病対策、の3つを抽出しました。これら3つの要因のうち、ティンギーラ獣医師は、**まず栄養改善に取り組むことが必要**だと考えました。研修終了後、ティンギーラ獣医師はキボガ県に働きかけ、「スーパーネピア²」という、乾燥した環境でも良く育ち、栄養価の高い牧草種子の購入予算を出してもらえることとなりました。まずはその牧草をティンギーラ獣医師自身が育てて種を増やし、その種を地域の酪農家に配り、その栽培方法を指導しました。さらに、その牧草や他の飼料を使って、酪農家と一緒に、**保存性の高いサイレージを生産**したそうです。その効果を実感した酪農家は多いようで、今ではサイレージを作る農家が増え、たくさん生産した酪農家は、近くの酪農家に売っているそうです。これによって、キボガ県の乳牛は、乾季にも十分な餌を食べられるようになり、栄養状態はかなり改善され、乳量も増えて**酪農家の生計向上に大きく寄与**しました。



¹ 畜産物の関わる生産から消費までの各段階で生み出される付加価値を連鎖させるシステム

² 高収量なネピアグラス(熱帯アフリカ原産のイネ科の多年草で、家畜の飼料として栽培される牧草)の品種

これからの目標

地域における乳牛の栄養改善という一大テーマに取り組んだティンギーラ獣医師ですが、牛乳生産のバリューチェーンのさらなる改善のため、地域の酪農家やバリューチェーン関係者との意見交換を通して問題点を分析し、ゆくゆくは**研究プロジェクトを立ち上げたいという目標**を持っています。関係者や問題点の分析においては、オンラインの課題別研修で学んだ知識が活かせることとなります。

また、課題別研修で学んだ家畜の臨床技術を活用し、受精卵移植技術で牛の生産性を上げたり、乳房炎の対策によって牛乳の品質を改善したりすることを考えています。地域の酪農家の期待を背負い、ティンギーラ獣医師は、**自身の持つ知識をさらに現地に還元することを計画**しています。